

ブース構成

第一部 手塚治虫の戦争体験

手塚治虫が15歳の頃(昭和18年)に戦局は次第に激しくなりました。兵庫県宝塚市に住んでいた手塚は、次第に厳しくなる軍事教練や勤労奉仕に従事する一方で、生命の危機にさらされているがゆえに「漫画」への思いは募っていきました。軍需工場の寮や、トロッコの横で、手塚治虫は隠れながら漫画を描き続けました。

昭和20年8月15日、戦争が終わりました。当時、兵庫県宝塚に住んでいた手塚治虫は、8月15日の夜、電車に乗って大阪に出た時、「おお、大阪の街に灯がついている！」と、その明かりを見て、はじめて平和になったという実感がこみ上げてきたといいます。

本コーナーでは、手塚治虫が体験した「戦争」をリアルに感じることができるよう、当時の手塚の写真と本人の手記、当時の様子を描いた漫画、当時の実物資料や写真などで構成します。

○手塚治虫少年の好奇心

映画、宝塚、漫画、アニメーション

資料例) 手塚少年時代の写真、宝塚パンフレット

○学徒動員としての生活

動員生活、隠れて書いた漫画

資料例) 手塚治虫直筆のノート

○大阪空襲

資料例) 罹災品 大阪空襲の写真 など

○終戦

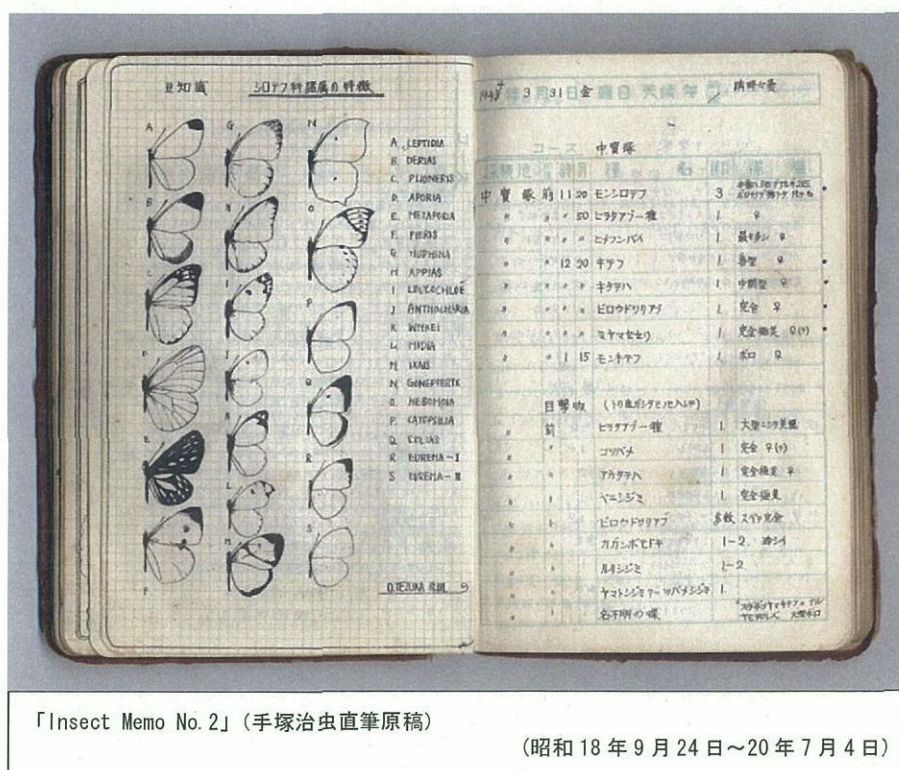
資料例) 玉音放送の写真 など

○戦後の暮らし

資料例) ジュラルミン製品、米つきビン
闇市、戦災孤児の写真など



軍事教練で剣道の訓練をする学童
(昭和17年2月撮影、毎日新聞社)



「Insect Memo No. 2」(手塚治虫直筆原稿)

(昭和18年9月24日~20年7月4日)